

雑木林ファンクラブ通信

住所：〒 247-0013 横浜市栄区上郷町 1562-1 「横浜自然観察の森」 Tel:045-894-7474

あらまほし

今年の干支は己丑。己は万物を育む草木が繁茂する整然とした田畑を表し、丑は植物の芽が種の中で未だ伸びていない状態を示す、とか。「手入れの行き届いた里山」で相通じる ZFC と己丑年。その幕開けに語られる一年の計とは・・・

一年の計で思い出すのは、今は昔の元旦親類顔合わせ。本家挨拶の決まり文句は①百姓家にあらまほしきは、トチ、モチ、カシ、カリン。②夢も希望も健康なればこそその物種。乾杯は屠蘇と自家製の花梨の新酒(註1)。その盃一杯が万病の因退散、厄病除けの御守り。食事を終えた順に檜の木刀で素振りする男性陣。正月行事の花梨酒と素振りの由来は不明なれど、無言の戒めを感じる。先の4つの樹木名に折節耳にした言葉をかきねて文字にすれば「耕作する土地を持ち、金銭その他貸しはしても借りん」となる。縁起担ぎの語呂合わせを越えた人生訓を伝える木々は、暮らしの中に在った。

トチノキ：縄文期から食料にし近年救荒植物の雄。捏ね鉢・サラダボール・菓子鉢・お椀等の刳物と盆・皿・茶托等の挽物がある。無い物ねだりだが観察の森産トチ尽し(註2)を試したい。

モチノキ：ミズキと共に知る人ぞ知る箱根寄木細工・木象嵌の白色材。この樹皮から抽出する粘りの強い白い物質(餅)で野鳥を獲ったが故にトリモチノキ⇒トリモチ。(註3)横浜・鎌倉周辺ではトリモチを塗った竹の擬似枝を木に懸け渡し、メジロやウグイスを捕獲。観賞用に飼育し姿や声を競う鳥比べをした。乾燥すると増すトリモチの粘着性を活用した別の用途を最近知った。樹木保護の虫害対策として、マツの菰巻きよろしくトリモチを幹周に塗布して昆虫の侵入を阻止したのだそうだ。

カシ SP(註4)：堅い木を語源とするカシノキ類は粘りと耐久性に優れている昔は木刀、今はゲートボールスティックと使い分ける御仁もおいでだろう。荷車の車輪や天秤棒は姿を消したがスコップや鍬・鉄鎚の柄や鉋の台は健在だ。備長炭は燃料の域を越えて衣食住・楽器へと只今用途拡大中。

カリン：喉飴を筆頭にカリン酒・シロップ・砂糖漬けで知られる果実の香りは高く、天然芳香剤としてお薦めの一品。カリンの床柱と家具は杢目の美しさで人目を引く。

樹木の素の形が解るこの季節、観察の森を起点に円海山周辺の森を抜け、尾根伝いに天園(六国峠)から鶴岡八幡宮は足を延ばせば、庭木や街路樹とは違うトチ・モチ・カシの姿を堪能できる。

朱鷺

註1 咳・痰・喉の炎症など風邪の初期症状に効くと言われ予防薬とする。

未成年者と下戸には花梨シロップが振舞われた。

註2 トチの捏ね鉢で練込んだトチ団子・餅にトチ蜜を掛けて食す。

註3 鳥獣保護法に基づき 1971年(S46)トリモチの使用が禁止された。

註4 ブナ科コナラ属のうちの常緑広葉樹の総称だが、関東でカシと言え一般にシラカシを指す。日本で知られるのは次の8種(アイウエオ順)アカガシ、アラカシ、イチイガシ、ウバメガシ、ウラジロガシ、オキナワウラジロガシ、ツバネガシ。

観察の森で見られるのはアラガシ、アラカシ、シラカシの3種。

鶴岡八幡宮にはウバメガシが在る。

1. 12月の活動報告

- ① 11月29日(土)晴 19名 窯屋根ペンキ塗り、本窯炭材詰め
- ② 12月6日(土)晴 30名 製材、炭材作り、竹酢液蒸留、
トーネズミモチ除伐(池ノ上)
- ③ 12月13日(土)晴 21名 製材、炭焼き準備、しめ縄準備(藁捌き)
クヌギ間伐(くぬぎ林)、さくら林剪定枝整理、
- ④ 12月20日(土)晴 32名 道具手入れ、しめ縄作り夕刻・忘年会(森の家
宿泊)炭焼き(本窯・ドラム缶窯、通夜)、
- ⑤ 12月21日(日)晴 20名 炭焼き、小屋周り整理、友の会・望年会



2. 12月運営会報告 (12月20日 1300～)

① 年初の作業打ち合わせ

初活動日・ 1月10日(土)七草粥。弁当不要。 炭の窯出し、竹垣修理の準備。

② SF準備を 1月から始める。

出品作品の制作、種類、担当者等の打ち合わせ。原則、昨年どおり。

駕籠屋は非常に人気があったが、駕籠のかき手が不足のため、今回は中止する。

竹馬については、是非に意見が分かれ中止する方向、再度話し合い。

③ 池の上クヌギ植栽地のエノキ、ミズキの伐採については市との調整後実施する

エノキ、ミズキが大きくなりすぎクヌギに日が当たらなくなっているが、大木は残すという原則的な考え方があり、森全体の計画をきめるなかで決定する。

- ④ サクラ林テングス病桜の処置については、市との調整がつかず今回は業者が低い枝のみを伐り倒した。先週の活動日に剪定枝を ZFC が整理。長期的な計画のもとに病気の染井桜を除伐、ヤマ桜、大島桜などに入れ替える必要あり。
- ⑤ クヌギ林の不要木の除伐については、今年作業予定分についてはマーキング済み。1～2月中に実施。今後の活動としては、現在生えている木の調査、ナンバーリングを行い、ゾーン毎に残す木、除伐する木を仕分けし計画的に作業する。2月にでも作業に入る。
- ⑥ 竹林整備：原則として、傾斜部分については業者が入り、雑木林にはみ出した周辺部分を ZFC が除伐する。
- ⑦ 9号緑地間伐、材の輸送：2月初めに間伐及び材の輸送を実施する。
- ⑧ 炭小屋道路側竹垣修理：資材については、先般の千光寺の竹材を利用する。
- ⑨ 炭焼きを2月14日・15日に通夜炭焼きを実施したい。センターの対応は。
- ⑩ センターよりの報告相談：
 - ・名瀬北村農園より南部農政事務所経由、7～8本（杉檜？）伐倒の依頼が来ている。（相談の結果、3～4名が12月27日か28日に下見に行くことでセンターが調整）
 - ・ZFC 担当の2月ボランティア説明会については、2月15日（日）に変更依頼があり、これを了承。当日はZFCの臨時活動日とする。
 - ・ZFCの不要樹除伐作業につき、森の管理方針の原則を確認、打合わせの上実施されたい。⇒ ZFC 内部で再度打ち合わせをする。

3. 1月の作業予定

- ① 1月10日（土） 七草粥、炭出し、炭材加工、竹垣修理準備 “弁当不要”
- ② 1月17日（土） SF 準備、炭材窯詰め
- ③ 1月24日（土） SF 準備、午後・運営会
- ④ 1月31日（土） SF 準備、製材

他に、前記の懸案事項について、必要に応じ組入れて実施する。

毎水曜日は自由活動日とする。

4. その他

- ① ゴロ報123号を同封します。
- ② 炭焼き記録（2008年度第2回）を添付します。



トチの大樹とトチの実



以上